

第二回

# 新春を

# 寿ぐ、

# 江戸から

# 現代へ

〈邦楽と舞踊〉

## 名古屋能楽堂

平成二十九年 一月二十九日(日)  
午後十二時三十分開演(十二時開場)

能管「翁より鈴の段」

藤田六郎兵衛

謡「高砂」

川口晃平

お話

舞踊 長唄「ことぶき」 松下仁(九歳) / 佐藤世十郎(八歳)

箏曲「六段の調・千鳥幻想」 鹿野竜靖(中二) / 小中の部で最優秀賞受賞

井上万優菜(中二) / 早瀬大和(小五)

舞踊 地唄「菜の葉」

柴川菜月 長瀬あずさ 藤田真理

箏曲 宮城道雄作曲「胡蝶」

中島裕康 黒田鈴尊

清元 歳旦浄瑠璃「卯の花」

清元清美太夫 清元美治郎

休憩十分

舞踊 地唄「鼠の道行」

吉村輝尾 菊央雄司

尺八独奏「奥州薩慈」

黒田鈴尊

舞踊 長唄「新曲浦島」

市川九女 吉住小真莉 吉住小三友

長唄／箏曲「瑠璃の風」

吉住小三友 萩岡未貴

休憩十分

長唄「春調娘七種」

吉住小美園 吉住小三友 望月正浩

舞踊 清元「保名」

市川櫻香 清元清美太夫 望月正浩

義太夫「花競四季寿より萬歳」

豊竹睦太夫 竹本小住太夫 鶴澤寛太郎

祝言

観世流 川口晃平 太鼓 加藤洋輝

終演予定(十六時四十分頃)



市川九女 黒田鈴尊 吉村輝尾 清元清美太夫 中島裕康 柴川菜月 川口晃平



加藤洋輝 鶴澤寛太郎 竹本小住太夫 鶴澤寛太郎 豊竹睦太夫 望月正浩 市川櫻香 吉住小美園 萩岡未貴



藤田六郎兵衛



### 吉住小三代

東京にて能楽の家に生まれる。六代目吉住流家元夫人。幼少より古典芸能の世界に身を置き、名人と謳われた梅若實(祖父)五十五世梅若六郎(父)、嫁して吉住慈恭(祖父)と起居をともにし、伝統芸能の薫陶を受ける。長唄三味線の演奏家として、1960年より日本の伝統音楽を国内外で紹介普及に駆け巡っている。



### 清元美治郎

大阪生まれ。清元寿国太夫師に入門。後に清元一寿郎師にも師事。1965年清元美治郎の名を許される。NHK邦楽技能者育成会13期終了。三世今藤長十郎師他主宰の「創作邦楽研究会」に参加。萩江露延として、萩江節三味線を兼ねる。NHK「芸能花舞台」のテーマ曲作曲。平成26年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成27年度芸術祭大賞受賞。

出演者座談

「花の美」表現=アート&カルチャー、アソシエーション



平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(文化遺産を活かした地域活性化事業)

# 新春を 寿ぐ、 江戸から 現代へ 〈邦楽と舞踊〉

平成二十九年 一月二十九日(日)  
午後十二時三十分開演(十二時開場)

## 【解説】

一、能管 「翁 より 鈴の段」  
謡 高砂

舞踊 長唄 「ことぶき」

嘉永六年(一八五三)三月

初代杵屋六扇 作曲

「なんでもないこの曲」には大きな魅力があります。言祝う(ことほぐ)心を伝え、鶴と亀にはじまり、常磐(変わらぬもの)松(尊ぶ)契(縁)相生(相老い)、栄久しき共白髪と締めくくります。

箏曲 「六段の調」

江戸時代初期 八橋検校 作曲

三味線手付 萩原正吟

生田流、山田流の創始以前の古曲。箏の代表格と言える曲です。

箏曲 「千鳥幻想」

江戸後期 吉沢検校 作曲

一九八〇年 沢井忠夫 編曲

吉沢検校作曲「千鳥の曲」を古典の持つ

歴史の重みと風格を現代に生かす試みとして組み立てられた曲です。

一、舞踊 地唄 「菜の葉」

菜の花が季語として使われ出した時期は、一六四〇年頃、それから菜の葉と蝶の童謡や端唄が生まれていきました。

一、箏曲 「胡蝶」

昭和十二年 宮城道雄 作曲  
花に戯れる胡蝶の姿を表した箏、尺八による二重奏曲。

一、歳旦浄瑠璃 清元 「卯の花」

天保二年(一八三一)春

「卯の花」とは、オカラの意味、雪の枕言葉に使われ歌詞は「卯の花の、雪で兔をつくるなら」と始まります。佃、深川気分の端唄ガカリ、「おつとあぶねえ長箱の」と新内節でクドキとなり、派手で粋な江戸好みの初春のお祝い曲です。

一、舞踊 地唄 「鼠の道行」

地唄の作り物といわれる滑稽物の一つ、鼠を擬人化して道行物を連想させるところが見どころです。「梅忠仕立道行風花道」とも言います。傾城はつか、手代子の助の二人の最後は「こそ浮名やとどめける」と結末は御覧頂く皆様のご想像で。

一、尺八 「奥州薩慈」

虚無僧のうちでも名のある吹き手はそれぞれ特徴があり、且つ即興性のある二曲をもつて托鉢していました。

その托鉢行脚の折に用いた曲を俗に「くさし」と呼びました。この曲は、福島の名人、神保政之輔によるものです。

一、舞踊 長唄 「新曲浦島」

明治三十九年(一九〇六) 開曲

坪内逍遙が国劇改良を提唱し「新楽論」の見本に作った楽劇の序曲です。海の情景をさまざまに描写し、三味線も

曲想を活かし、唄は舟唄をはじめ聴かせどころも多く、海や風土、漁をする父親を思う息子まで、一人で全てを踊り分けていきます。

一、長唄／箏曲 「瑠璃の風」

長唄三味線と箏の器楽合奏。  
長唄に箏の伴奏を入れる形式は、昔より成されてきました。三味線は打楽器的な要素を、箏は弦数も多くハープ的な要素も担い、二つの異なる弦楽器は、西洋楽器にはない独特の響きがあり、織り成されて「日本の音(心)」を奏でます。「花風会」に寄せて 萩岡松韻より)

一、長唄 「春調娘七種」

明和四年正月

この曲は、曾我兄弟が、父の敵、工藤祐経と初めて顔を合わせる「曾我の対面」の前の場面です。春の七草の行事に、初春の行事、七草をトントンと叩いて刻むに事よせ、敵、工藤を討つ。しつたん、しつたん、どんがらり。古風な中に、静御前の女性的旋律も盛り込まれた曲です。

一、舞踊 清元 「保名」

文政元年(一八一八) 開曲

享保十九年(一七三四年)竹本座初演  
『菅屋道満大内鏡』の安倍保名が、恋人柳の前の死を嘆くあまり心狂いし、今は形見になった小袖を抱いて狂い歩く場面を取材舞踊化した作品です。清元の名曲の一つです。

一、義太夫 「花競四季寿 より 萬歳」

文化六年(一八〇九)

四季それぞれの光景を描いた景事から、新春を祝う「萬歳」を上演致します。正月の町々を太夫と才蔵が新年を祝し、鼓を打ちながらにぎやかに歩いていく光景をお楽しみ下さい。

主催:日本の伝統文化をつなぐ実行委員会  
顧問:小島美子(国立歴史民俗博物館名誉教授) / 能楽藤田流十一世宗家 藤田六郎兵衛  
協力:Art and Culture Association (ACA)  
後援:愛知県/愛知県教育委員会 / 名古屋市 / 名古屋市教育委員会

## チケット 全自由席

大人:3,500円 / 小中学生:1,000円(当日受付にて販売)

会場の能楽堂は新春を寿ぐ(松竹梅)をテーマにしました生花のご披露と御菓子の振るまいをおこないます。(先着200名)皆様のお越しをお待ち致しております。  
※車いすでの観劇可能です。  
※未就学児のご入場はご遠慮させていただきます。

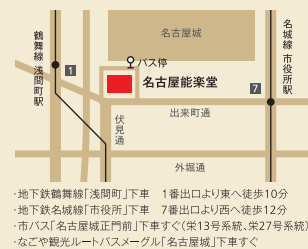
### 特典

「新春を寿ぐ」のお切符をお持ちの方は名古屋城・本丸御殿を、特別に解説とともにご見学いただけます。

集合:1月29日(日)10時40分 名古屋城正門  
※名古屋城の入場券(大人500円)をご購入しご集合ください。  
名古屋城:052-232-1700

## チケットご購入・お問合せ

- 芸文プレイガイド  
電話 052-972-0430
- 名古屋能楽堂  
電話 052-231-0088
- マネジメント・プロ  
電話 052-735-3151
- チケットぴあ  
電話0570-02-9999(Pコード455-944)
- 中日サービスセンター・プレイガイド  
電話 052-263-7282
- 日本の伝統文化をつなぐ実行委員会  
電話 052-323-4499 / 090-5639-3900  
メール mkabuki@docomo.ne.jp



名古屋能楽堂  
名古屋市中区三の丸一丁目1番1号  
(名古屋城正門前) TEL 052-231-0088

お申し込み用紙 ファックス 052-323-4575

お名前: \_\_\_\_\_

住所: \_\_\_\_\_

電話: \_\_\_\_\_

ファックス: \_\_\_\_\_

全自由席  
3,500 × \_\_\_\_\_ 枚 = \_\_\_\_\_ 円  
※小中学生は当日受付にて販売します